

# トランペット

【英：trumpet / 独：Trompete / 伊：tromba / 仏：trompette】

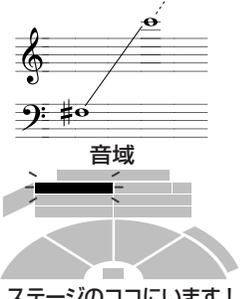
## .....楽器データ.....

サイズ：約 48cm(※ ピストンのB $\flat$ 管の楽器の場合)

トランペットの名曲：《展覧会の絵》《軽騎兵》序曲、《アイーダ》凱旋行進曲、トランペット吹きの日、「アメリカ横断ウルトラクイズ」のテーマ曲(スタートレックのテーマ)など

トランペットを愛した作曲家：ヴィヴァルディ、マーラー、ブルックナーなど

トランペット吹き有名人：宇崎竜童、桑野信義、タモリ、KONISHIKI、日野皓正、エリック・ミヤシロ、ルイ・アームストロング、マイルス・デイビス、フィリップ・ジョーンズなど



## .....

オーケストラのなかで一番キラキラとした音で華やかに輝いている——といえば間違いなくトランペットでしょう。カッコいいファンファーレや曲のクライマックスで朗々と奏でられるサウンドは、聴く人の胸にストレートに響きます。

トランペットが活躍する音楽といえば、まずはジャズを思い浮かべる方も多いことでしょう。ジャズとクラシックとでは、同じ楽器でも好まれる音色が異なり、奏法もジャズはピブラートをかけるがクラシックはかけないなど、いろいろと違いがあります。クラシックの音楽でも、オーケストラで吹く人とソロで活躍する人、アンサンブルをやる人とは吹き方が違うんだとか。なかなか奥が深そうです。いろいろなジャンルの音楽に参加できるのは奏者にとっては楽しいことです。

ところで、これは吹奏楽が出身の筆者の思い込みだったようなのですが……トランペットの人は楽器ケースも比較的小さめで軽そうだし、持ち運びも楽なんだろうなあと思っていたのです。ところが。オーケストラに来てみたらトランペットの人って、なんだか大きな楽器ケースをときに何個も重そうに肩から背負って練習に来たりして、イメージと違うんです。なぜ？ それは、オーケストラの奏者は楽器を何本も使うからなんですね。



左からフリューゲルホルン、ピストンのB $\flat$ 管、C管、D管、ホルネット、ピッコロ、手前はロータリーのB $\flat$ 管、C管

いろんな管の長さや、システムが違う楽器があるので

です。トランペットには、大きく分けてピストン式の楽器

と、ロータリー式の楽器があります。バルブと呼ばれる、音を変えるためのスイッチのシステムが違うのですが、日本で一般的に、とくに吹奏楽やジャズなどで見られるのはピストンの楽器です。世界でもピストンの楽器が主流ですが、ドイツ系のオーケストラでは楽器を横に構えるロータリーの楽器を使います。その違いは？ ロータリーにも、純粋なドイツ系やウィーンの系統などいろいろな種類があり微妙に違うのですが、一般的にはロータリーの楽器は弦楽器など他の楽器の音にとけやすい、やわらかい“いい音”がします。激しい音は苦手で、音を立てさせるには体力も使います。これに対してピストンの楽器は、輪郭がくっきりハッキリした明るい目が覚めるような派手めの音が特色。ソロ楽器的というのでしょうか、誤解を恐れずに言えば「目立つ音」です。吹いた感触がロータリーよりも楽で、楽器のトラブルもあまり起きません。でも、埼玉フィルの奏者はみんな「ロータリーのほうが好き」なんだとか。どうやら独特の魅力があるようですね。

システムの違いのほかに管の長さの違いもあります。ジャズや吹奏楽等で使われるいちばん一般的なものはB $\flat$ 管と呼ばれるものですが、オーケストラでは少し短いC管もよく使われます。ほかにもF管、G管、A管、D管、E $\flat$ 管と、あらゆる管の長さのトランペットがあり、それぞれ音色に特長があります。ドイツではロータリーの楽器が使われることはお話ししました。子どもでもロータリーの楽器を吹いていて、ピストンの楽器はジャズ・トランペットと呼ばれるそうですが、同じヨーロッパでも、フランスやイギリスのオーケストラではピストンのC管が、ロシアのオーケストラではどんな曲でもピストンのB $\flat$ 管が使わ

Mさん	
ロータリーのB $\flat$ 管	1本
ロータリーのC管	1本
ピストンのB $\flat$ 管	3本
ピストンのC管	1本
ピストンのE $\flat$ /D管	1本
ピッコロのA/B $\flat$ 管	1本
ホルネット	2本

Gさん	
ロータリーのB $\flat$ 管	1本
ロータリーのC管	1本
ピストンのB $\flat$ 管	3本
ピストンのC管	1本
ホルネット	2本
フリューゲルホルン	1本

Aさん	
ロータリーのC管	1本
ピストンのB $\flat$ 管	1本
ピストンのC管	1本

れます。さらには、管が一段と短くて(つまり楽器が小さい。ただし高い音が楽に出せるわけではない) 鋭い音色のピッコロトランペットや、トランペットとは親戚的なあたたかい音色のホルネット、オーケストラでは使われませんが渋いかすれた感じの音色のフリューゲルホルンなどという楽器もあり……

これでは、みなさん楽器が増えるわけですね。実際、埼玉フィルの団員3名が持っている楽器の種類と本数は表の通り。ス、スゴい……。

では、そんな楽器持ちのみなさんにインタビューしてみましょう。なんでそんなにたくさん、同じ種類の楽器を3本とか持っているのですか？ 「いい楽器を見ると欲しくなっちゃうんですよ。他の楽器に比べれば値段も高くないでしょう。中古だとさらに安いし。で、つい買っちゃうんです」「ぼくは学生なのであまり持ってないけれど、楽器はたくさん買いたいです。持っていないロータリーのB $\flat$ 管や、ホルネットとかピッコロとか……。だいたいいつも楽器が欲しいと思ってますね」「楽器のリペアの勉強をしようとしていたので、メンテナンスの練習用に不要品をもらい受けた楽器なら、まだ他に5~6本はありますよ」——そんなに！ じゃあ練習するときは、今日はどの楽器にしようかな~とか楽しいでしょうね。

「いや個人練習ではロータリーしか吹かないです」「吹いたときの独特の抵抗感が何とも言えなくて」「《展覧会の絵》はピストンの楽器で演奏することが多いのですが、今回はロータリーで吹きます」——本当にロータリーが好きなんです。ソロで始まる《展覧会の絵》はすごいプレッシャーで

本日一番の聴かせどころ  
《展覧会の絵》冒頭のブロムナード

は？ 「はい。でもトランペットのトップはいつでもプレッシャーがかかってますよ。音を出すために振動させているのが体の一部(唇)なので、その管理も難しい。失敗しても道具のせいにはできないです」「目立つ音で、失敗なんかしたら絶対にわかってしまうでしょう。だから、たとえどんなに体調が悪くても、最低限度の演奏はしなくては行けない」「いつもそういう経験をしているので、実社会でも仕事上の発表や交渉、スピーチなど、どんなときにも物おじしない度胸というか根性がつきましたよ。舞台に出たら、いくら難しいソロでも緊張していても“やるしかない”わけ。カゼもひけない。言い訳もできない。いい経験になってます」「音が目立つのでうまくいけば気持ちいいけれど、失敗したときのダメージは甚大ですね」「だからトランペット吹きには、明るくて素直で単純、裏がないいい人が多いけれど、デリケートでへこみやすいというパターンがありますね」「このあいだも急に音が出なくなって、練習に行く気もなくなり、世の中終わったかと思いました」——え、それでどうしたの？

「1週間、落ち込んだら疲れて治りました！」「ね、デリケートでへこみやすいけど単純でしょ」——なるほど……。でも、みなさんはやっぱり目立ちたくてトランペットを始めたのですか？ 「そう。目立ってカッコよかったから、小学校の金管バンドに入っていきなり『トランペットをやりたい！』と言いました。正確に言えば、トランペットしかやりたくなかった」「自分はちょうど兄の楽器が家にあったので、吹奏楽部に入ったときトランペットになりました」「私も第一希望からトランペットでしたね」——皆さん希望通りなんです。本日の《展覧会の絵》もトランペットの希望もあって実現しました。プレッシャーに負けない素晴らしいソロを披露してくれることでしょう。期待していますよ！

\* \*

毎回、演奏会のプログラムで、オーケストラで使用される楽器をひとつずつ紹介しています。次回もお楽しみに！